

始めます！こんなこと、あんなこと

大雪の中、第8回市民交流会に約200名参加

前日の夜から雪が降り始め、早朝から吹雪のような雪模様となった2月24日。会場となる中部中学校では、スタッフの除雪作業から始まりました。開会セレモニーが始まるころには、心配された来場者も徐々に増えてきました。

子どもたちによるわらべ歌遊びから始まりました。「かごめかごめ」から「まりつき唄」まで昔懐かしい歌と踊りに、大いに盛り上がりました。続いて、三重大学大学院工学研究科 川口淳 准教授による「いつ起こるかかわからない大地震への備え」の基調講演では、防災とならんで重要な「減災」を学びました。



来場者が増えてきた会場では、バザーや展示ブースでの交流の輪が広がり、昼近くになって4つの分科会の会場に分かれました。

「明日来るかも？大地震！！」分科会では、非常食や防災グッズを整える、安全な地帯を確認するなど、色々な話がありましたが、ひとつの言葉にすれば、自分の身を守ることだとして次の宣言をしました。「私たちは常に防災意識を高め、わが身を守ることにはします。」

「安心な食べ物を食べるには」分科会では、食材の知識を深めよう、和食を中心にもっていこう、食材を無駄にしないように最後まで無駄なく使いおいしく食べよう、男性も台所に立とう、自分たちで土作りをして生産地を自分たちに引き寄せよう、ということで「地産地消から自産自消へ」と宣言しました。



「子どもを悪から守るには」分科会では、特に携帯電話にしぼって話し合いました。子どもの時間の隙間に携帯電話が入り込んで広がった、正しい知識を持って親子で話し合いながらルール作りをしよう、子どもを守るメーリングリストを作り保護者、先生、市民が情報の共有と交流をしていこう、と第一歩を踏み出しました。

「高齢者の安心とは」分科会では、サークル活動を活発にするために、茶飲み友達をつくろう、満腹にならない程度に地場産を食べよう、ほどほどの距離はウォーキングで、と3つのポイントを決めました。

川口先生講評

天候の悪い中、これだけの人が集まってびっくりし頼もしく思いました。分科会で話し合ったことが次のステップになり、地に着いた市民活動になっていくと思います。市民活動はがんばりすぎないで生活の中に組み込むといいです。結論だけでなくプロセスが大事です。市民の活動も普段のちょっとしたことを上手に取り入れ、自分のものにしていくのがよいです。



また亀山は津波の心配はないので比較的安全と思いますが、局所的な災害はあるでしょう。大地震災害は広範囲で起こるので、亀山を最優先して助けに来られないと思うから、近くの被災者を市民みんなで助けに行けるような準備が必要です。